Color Science Association of Japan

裏千家、お茶の御点前における「炭手前」の配色構成に関する研究
初炭手前（炉の場合とする）

Studies on color scheme of the Sumitemae

近藤 恒夫　　柴野 晶子
Kondo Tsuneo　　Shibano Shoko
大阪芸術大学　　近藤色彩設計研究所

はじめに

「炭手前」とは、お茶をたてる前に、準備する間、炉に炭をつぎ手順よく、湯をわかすまでを、秩序ある一つの形式としたもので、より手順よく、無駄がなく、しかも火がよりはやくおこり、もっとも適当な火加減となり、そして、火気が充分に釜の底にあたるように工夫されている。その中にて、自然物をもちいながらも、色彩的に見て、より美しく感じられるように、考えられている点を、今回取り上げて配色構成を研究してみた。

実験方法

茶室の広さ及び畳の色彩、畳のへりの色彩などは、今回の実験条件から省く

初炭手前に必要な道具類

炭（黒）　N2.5（N2～N3.5）
枝炭（白）　N9.5
炭火　7.5R 6/12（5R～10R 5～7/10～14）
かわいた炭　2.5Y 6.5/2（10YR～5Y 6～7/1.5～2.5）
しめし炭　2.5Y 5.5/2（10YR～5Y 5～6/1.5～2.5）
灰器　2.5YR 6/10　　五徳　N 5.5
ひばし　5YR 3.5/4
鈔　5YR 3.5/4
羽毛　N9.5、5YR 3.5～4/4～5
炉縁　N-1.0
炉の内側　7.5YR 5/6
（JIS Z8721標準色票を使用）

釜敷　ふくさ　香合などの色彩は省く

照明　白熱灯（60W和紙張り）と窓と並用
　炉面 110 lx

観測　距離 70cm　視野 32°
　炉（灰面）28cm²
　炭火 3.5cm（3ケまとめての直径）
　黒炭 20cm×23cm（8本分）
　枝炭 18.2cm　5本をたてかける

炭の寸法　図1

長さ＼名称		胴炭	丸管	割管	毬打	割毬打	点炭	枕炭	香合台	枝炭	輪胴
炉用	cm	15.2	15.2	15.2	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	18.2	6.1
	寸	5	5	5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	6	2

まとめ

本実験の結果により、配色構成を考察すると、灰の面積（湿し灰も含む）が、約70%、炭の面積（黒）が、20%　枝炭の面積（白）が、4%　炭火の面積が、1～2%になる。このことから美しさのポイントは、次のようになる。

① 炭（黒）の面積と、枝炭（白）の面積の比が、5：1となり、明度対比が美しい。
② 背景となる、灰の（湿し灰も含む）N-6に対して、炭の黒N-2.5、枝炭の白N-9.5以上のことからも明度対比が美しい。
③ 無彩色、灰（湿し灰も含む）のグレー、炭の黒、枝炭の白による明度対比の美しい中に、有彩色の一番刺激の強いもの、炭火の赤い火が1～2%含まれることにより、アクセントカラーとなって、彩度対比の美しさが出され、より効果的であるのではないかと考察される。

参考文献

裏千家茶道教科3「初歩の茶道、炉点前」
　〃　8「特殊点前　炉」
著者　千宗室　　発行所　淡交社
裏千家茶道教本、器物編3「炭道具」
著者　千宗室、山藤宗山　　発行所　淡交社

NII-Electronic Library Service

Color Science Association of Japan

お点前の順序をおってみると

① 炉にもととなる炭火（3個）が、置いてある状態

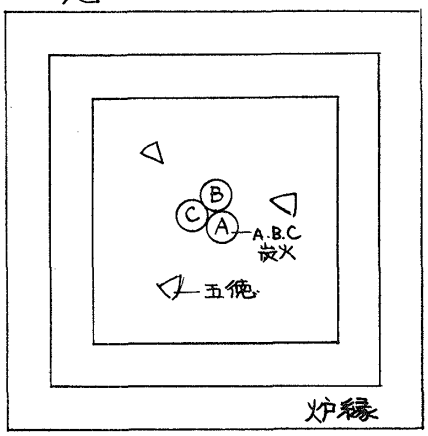


図1 はじめ

② 炭をつぐ前に、灰がまいあがるのを防ぐ為に、しめし灰を炉の灰面全体に少しづつ均等にまいた状態

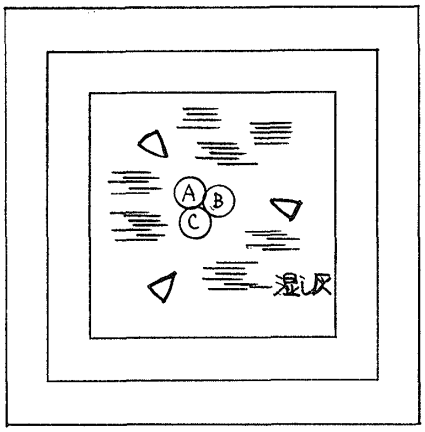


図2 中間

③ 炭を全部つぎ終った状態

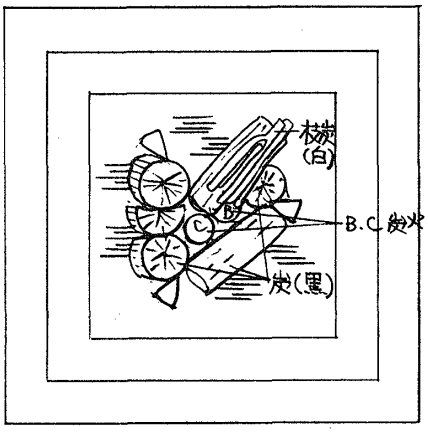
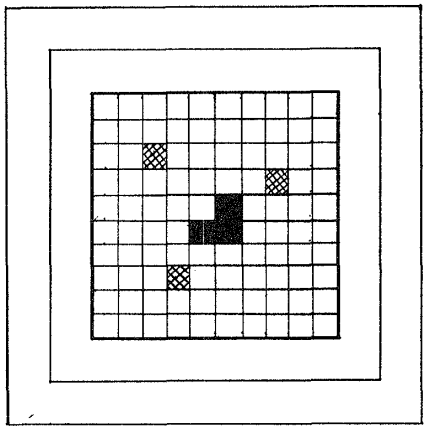


図3 終り

お点前の順序においての色彩面積割付分布図

①

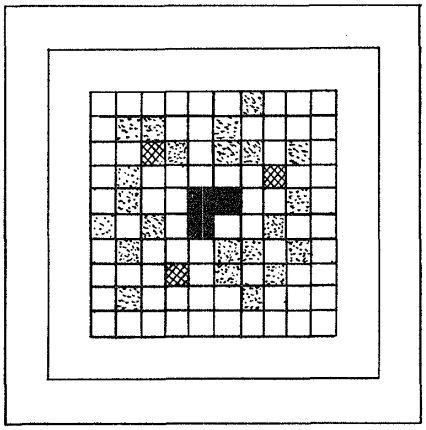


炭火
五徳
灰
湿し灰
炭(黒)
枝炭(白)

炭火 3%
灰 94%
五徳 3%

図1

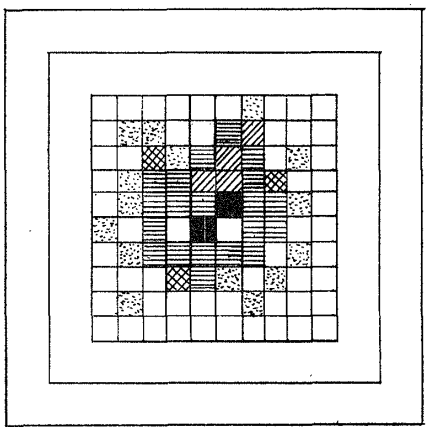
②



炭火 3%
湿し灰 22%
灰 72%
五徳 3%

図2

③



炭火 2%
枝炭(白) 4%
炭(黒) 20%
湿し灰 15%
灰 56%
五徳 3%

図3

NII-Electronic Library Service